

令和4年1月31日
中部地方整備局

「伊勢湾再生のための行動計画（第二期）」の中間評価を実施しました。
～伊勢湾の再生に向けた取組が進んでいます。～

<概要>

伊勢湾に関連する関係省庁及び地方自治体からなる伊勢湾再生推進会議で「伊勢湾再生のための行動計画（第二期）」の策定から5年間の施策の実施状況およびその効果を総合的に評価し、中間評価をまとめました。

<参考>

- ・伊勢湾再生推進会議の関係資料は以下のホームページに掲載しています。
https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/sai_ise/index.html
- ・伊勢湾再生海域検討会の関係資料は以下のホームページに掲載しています。
<http://www.pa.cbr.mlit.go.jp/isewan/>

<配布先>

中部地方整備局記者クラブ

<問い合わせ先>

中部地方整備局 企画部

広域計画課長

ごとう あきら
後藤 明
います たかし
今津 崇

広域計画課 建設専門官

TEL : 052-953-8129、e-mail : cbr-kouiki_atmark_mlit.go.jp

※ 「_atmark_」を「@」に置き換えてください。

中部地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課長

みさき たかお
三崎 隆央
ひえい きょうこ
日恵井 京子

海洋環境・技術課 課長補佐

TEL : 052-209-6329、e-mail : pa.cbr-isewan-saisei_atmark_mlit.go.jp

※ 「_atmark_」を「@」に置き換えてください。

※写真の提供を希望される場合もお問い合わせください。



2022 年 1 月 31 日
伊勢湾再生推進会議

“健全で活力ある伊勢湾”を次世代に継承するため人と森・川・海一体で取り組んでいます

「伊勢湾再生行動計画」の取り組みと効果について中間評価をしました

伊勢湾では、赤潮、苦潮、貧酸素水塊の発生、干潟、浅場、藻場の減少、自然海岸の減少等のさまざまな課題に取り組むために、伊勢湾再生行動計画を策定し企業・学校・行政また沿岸域及び流域の人々やNPOなど多様な方々と連携した取り組みを継続し、今年で **15 年目**を迎えました。

中間評価では、平成 29 年度に作成した二期計画について、5 年間の水質や生態系の改善・回復状況やふれあいの場の創出などの各機関の取り組みを確認しました。その結果、各種取組により COD の低下や、覆砂等による底層 DO の改善、栄養塩管理によるアサリの重量化など水質や生態系の回復が見られるとともに、森から海まで行政機関や民間団体などの枠組みを超えた活動により、人と海とのふれあいの場や機会の創出が進んでいることが確認でき、これからもモニタリングをしながら取り組みを継続していくこととしています。

森



住民と企業との協働による森づくり

川



川の生き物調査

海



海岸の清掃活動

2021年度「伊勢湾再生行動計画（中間評価）」

■水質を改善

伊勢湾流域圏の水質等を改善するため、下水道の整備による汚濁負荷の削減、森林・農用地等の保全・整備、ヨシ原再生による水質浄化機能の再生・創出等、沿岸域及び流域の自治体、企業、市民の方々の協力を得ながら実施してきました。



高度処理施設の導入（露橋）

「下水道事業」
【令和2年度までの整備】
汚水処理人口普及率:91%



なごや西の森づくり

「企業と協働した森づくり」
【令和2年度の実績】
参加人数:5,554人



ヨシ原再生（豊川）

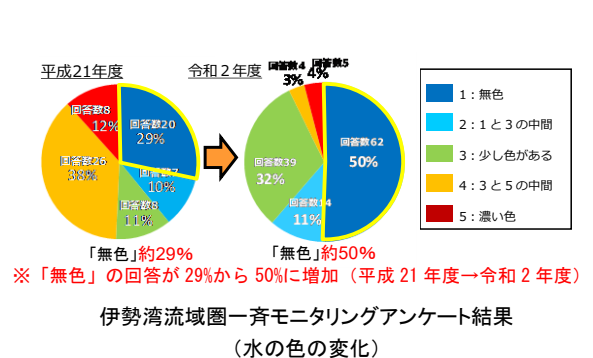
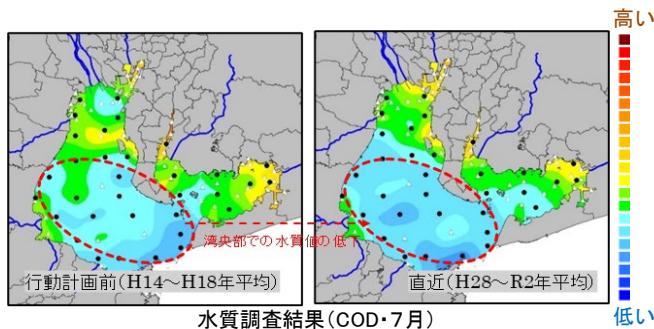
「自然再生事業」
【令和3年度までの実績】
ヨシ原・砂州再生面積:5.60ha



清掃活動（答志島）

「川と海のクリーン大作戦」
【令和2年度の実績】
参加人数:165,319人

夏場の水質が悪くなりやすい時期（7月）の水質を比較すると、湾奥部の一部を除き広い範囲でCODが低下し改善傾向を確認できます。また、市民と連携した「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」では、水がきれいになったとの回答※も増えています。



■人と水のふれあいの創出

沿岸域及び流域の人々が海辺に親しみ、生活空間に憩い・安らぎを得られる空間を拡げるため、自然や歴史的・文化的資源の保全に配慮して、水際線、緑地、景観の形成を図るとともに、海岸の利用を進めることで人と海とのふれあいの場や機会を創出してきました。



蒲郡セーリング大会

「臨海部緑地等整備」
【令和2年度までの整備】
臨海部緑地等面積:16.6ha



中川運河の公園

「河川等の公園整備」
【令和2年度までの整備】
河川敷等の公園面積:1,332ha



海洋環境整備船「白龍」

「浮遊ごみの回収」
【令和2年度の実績】
浮遊ごみの回収量:5,298m³



宇治山田港海岸

「環境配慮護岸等の整備」
【令和2年度までの実績】
環境護岸の整備延長:14,833m

■生態系の回復

多様な生態系を回復するため、干潟・浅場、藻場及び覆砂等の保全・再生・創出を実施し、生物の生息、底層 DO 等で改善が見られました。また、下水道施設の試験管理運転、伊勢湾シミュレーターを活用した検討を実施するとともに、干潟の機能等について理解を深めるため、観察会などのイベントを多様な主体と連携して実施してきました。



土砂投入

「干潟・浅場造成、覆砂」

【令和2年度までの整備】

干潟造成面積:99.5ha

覆砂面積:41.4ha



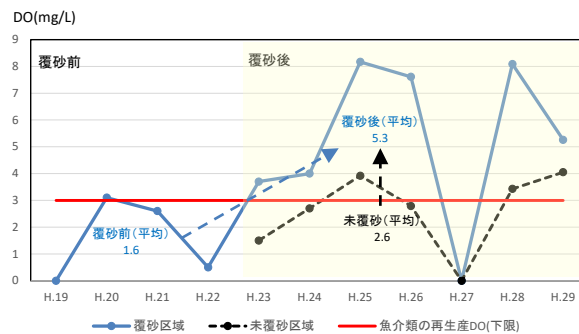
干潟の生き物観察会

「多様な主体が連携したイベント」

【令和2年度の実績】

イベント回数:1,529回

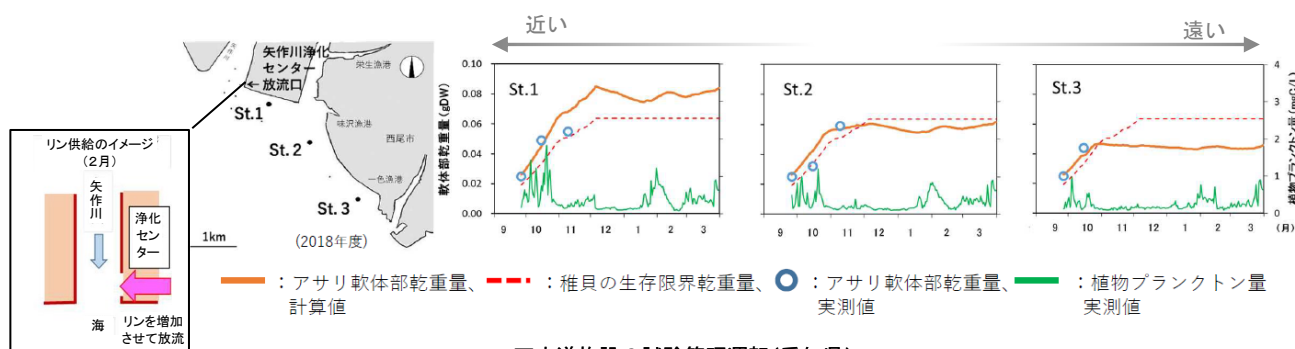
参加人数:30,183人



「覆砂区域(三河港／御津地区)の環境変化(夏季 DO)」

【栄養塩管理】

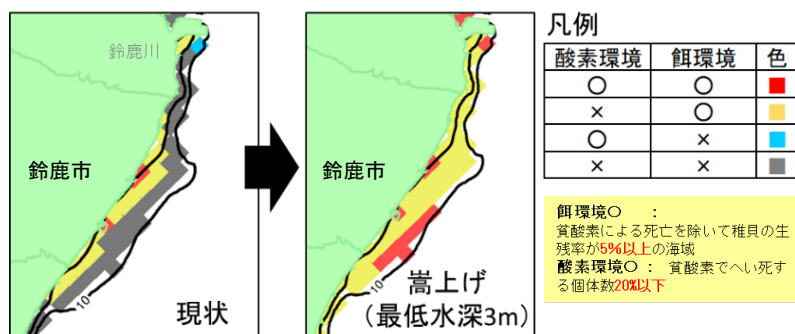
アサリなどの生育環境改善のため、秋・冬季にリン濃度を増加させる下水道施設の試験管理運転を実施しました。放流口に近い範囲では植物プランクトンが多く、移植したアサリの重量も大きいことが確認できました。



下水道施設の試験管理運転(愛知県)

【伊勢湾シミュレーターの活用】

湾内の水質環境などを再現・予測できる「伊勢湾シミュレーター」を活用し、生物の生息環境に係る検討を実施しました。水中の餌及び酸素について環境改善効果の高い範囲を選定することが可能となり、干潟・浅場を効果的に造成しました。



干潟再生マスタープランの参考となったシミュレーション事例
(浅場造成によるアサリの生息環境の変化)



干潟再生マスタープラン(三重県)に基づき造成された干潟(吉崎海岸)